

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 平成24年11月9日

【四半期会計期間】 第20期第2四半期(自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日)

【会社名】 株式会社 シード

【英訳名】 SEED CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 岡 橋 成 泰

【本店の所在の場所】 京都市山科区榎辻中在家町8番地1

【電話番号】 (075) 595 - 1311 (代)

【事務連絡者氏名】 管理部グループ長 七 海 不 二 男

【最寄りの連絡場所】 京都市山科区榎辻中在家町8番地1

【電話番号】 (075) 595 - 1311 (代)

【事務連絡者氏名】 管理部グループ長 七 海 不 二 男

【縦覧に供する場所】 株式会社 大阪証券取引所
(大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第19期 第2四半期 連結累計期間	第20期 第2四半期 連結累計期間	第19期
会計期間		自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日	自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日	自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日
売上高	(千円)	2,743,722	2,074,794	4,962,119
経常損失()	(千円)	118,364	79,341	131,065
四半期(当期)純損失()	(千円)	74,470	61,386	116,987
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	74,470	61,386	116,987
純資産額	(千円)	670,267	566,363	627,750
総資産額	(千円)	3,087,432	2,928,974	3,177,174
1株当たり四半期(当期) 純損失金額()	(円)	6,543	5,394	10,280
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)	-	-	-
自己資本比率	(%)	21.7	19.3	19.7
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	602,753	161,431	1,056,771
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	15,637	45,264	16,824
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	676,010	192,596	851,110
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)	429,881	398,848	707,612

回次		第19期 第2四半期 連結会計期間	第20期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日	自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日
1株当たり四半期純損失金額()	(円)	2,505	2,560

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式がなく、また、第19期第2四半期及び第20期第2四半期、第19期は1株当たり四半期(当期)純損失であるため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

当社グループは、祝園商業施設（せいかガーデンシティ）建設にかかる設備資金調達のため、平成18年7月31日に、みずほ銀行をアレンジャーとするシンジケートローンを締結しており、同契約の純資産額及び経常損益に対する財務制限条項に抵触する事実が発生しております。

これにより、将来にわたって事業活動を継続するとの前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

（1）経営成績の分析

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の影響により厳しい状況が続いておりましたが、資材流通の復旧や復興ムードの高まりにより、一部には回復の兆しが見えました。

しかし、欧州金融危機再燃などの景気減速懸念から、先行き不透明な状況が続いております。

建設業界におきましても、復興支援・住宅エコポイントや住宅ローン減税、住宅取得資金に係る贈与税の非課税枠の拡大等の政策支援はありましたが、雇用情勢、所得環境の悪化懸念等から依然として厳しい状況が続いております。

当社グループにおきましても、京都市内及び滋賀県内の貸家新設着工件数が回復傾向にはあるものの、依然として厳しい受注競争を強いられております。

このような状況のもとで、業績につきましては売上高は2,074,794千円（前年同四半期は2,743,722千円）、利益面については営業損失67,517千円（前年同四半期は100,940千円）、経常損失79,341千円（前年同四半期は118,364千円）、四半期純損失61,386千円（前年同四半期は74,470千円）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

なお、報告セグメントの区分を変更しております。詳細は、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項（セグメント情報等）セグメント情報」の「4. 報告セグメントの変更等に関する事項」をご参照ください。

（建設事業）

建設事業につきましては売上高1,621,287千円（前年同四半期は1,354,075千円）、セグメント損失4,011千円（前年同四半期は35,264千円）となりました。

（不動産事業）

不動産事業につきましては売上高6,105千円（前年同四半期は934,885千円）、セグメント利益6,105千円（前年同四半期は17,106千円）となりました。

（不動産賃貸管理事業）

不動産賃貸管理事業につきましては売上高447,401千円（前年同四半期は454,761千円）、セグメント利益34,546千円（前年同四半期は38,676千円）となりました。

（2）財政状態の分析

（資産）

流動資産は、前連結会計年度末に比べて15.2%減少し、1,036,881千円となりました。これは、未成工事支出金が105,959千円及び繰延税金資産が17,579千円それぞれ増加しましたが、現金及び預金が345,777千円減少したことなどによります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて3.1%減少し、1,892,093千円となりました。これは、建物及び構築物が49,437千円減少したことなどによります。

この結果、資産合計は、前連結会計年度末に比べて7.8%減少し、2,928,974千円となりました。

（負債）

流動負債は、前連結会計年度末に比べて3.1%減少し、1,330,721千円となりました。これは、未成工事受入金が38,471千円増加しましたが、短期借入金が35,000千円及び1年内返済予定の長期借入金が20,000千円それぞれ減少したことなどによります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて12.1%減少し、1,031,889千円となりました。これは、社債が25,000千円、長期借入金が112,596千円それぞれ減少したことなどによります。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて7.3%減少し、2,362,610千円となりました。

（純資産）

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて9.7%減少し、566,363千円となりました。これは、利益剰余金が61,386千円減少したことによります。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物の四半期末残高は、398,848千円（前連結会計年度末は707,612千円）となりました。

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果、使用した資金は161,431千円（前年同期は得られた資金602,753千円）となりました。

その主な内訳は、棚卸資産の増加額105,959千円などによる支出により資金減少となりました。

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果、得られた資金は45,264千円（前年同期は使用した資金15,637千円）となりました。

その主な内訳は、定期預金の払戻による収入額54,316千円などにより資金増加となりました。

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果、使用した資金は192,596千円（前年同期は676,010千円）となりました。

その主な内訳は、短期借入金の減少額35,000千円及び長期借入れの返済による支出額132,596千円などにより資金減少となりました。

(4) 事業等のリスクに記載した重要事象等についての分析・検討内容及び当該重要事象等を解消し、又は改善するための対応策

当社グループは、シンジケートローン契約の参加金融機関に対しまして、第18期を基準年度として中期利益計画（第19期～第21期）の説明を行っております。

その結果、参加金融機関との協議におきましては賛同を得ており、直ちに「期限の利益の喪失」の請求により当該シンジケートローンを一括返済しなければならない可能性が低いものと考えております。

なお、当第2四半期連結累計期間においても当該状況に変更はなく、事業継続において不確実性は認められないものと判断しております。

(5) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(6) 研究開発活動

該当事項はありません。

(7) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

当社グループを取り巻く事業環境は、大変厳しいものであります。景気悪化に伴う新築着工件数の減少、地価の下落など、これらは売上の減少に重要な影響を与える要因となっております。

当社グループといたしましては、これらの状況を踏まえて、地域に密着した事業活動により培われたノウハウを提供することによって既存営業ルートはもちろん、新規営業ルートへのアプローチをもって販売チャネルを広げることにより受注確保を図ってまいります。

さらに、地域に密着した事業活動によるエリアマーケティングをもって採算性の合う用地の仕入れ及び利益率の低下を抑えるために徹底したコスト低減を図ってまいります。

(8) 経営者の問題認識と今後の方針について

当社グループの経営陣は、現在の事業環境に沿った経営方針を立てておりますが、その環境は不安定であり、当社の取り巻く環境は厳しさを増すものと考えております。

今後も引き続き、事業環境の変化に合わせて、硬直化させることのない弾力的な経営方針を立て、当該方針に基づいた経営戦略を打ち出して事業展開を図ってまいります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	40,000
計	40,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成24年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成24年11月9日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	12,300	12,300	大阪証券取引所 JASDAQ (グロース)	単元制度を採用して おりません。
計	12,300	12,300		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成24年9月30日	-	12,300	-	260,782	-	226,282

(6) 【大株主の状況】

平成24年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
兼近 朱美	京都市左京区	1,960	15.93
宮本 美恵子	京都市左京区	1,824	14.82
有限会社 エルフ	京都市左京区松ヶ崎御所ノ内町6番4	1,400	11.38
大阪中小企業投資育成 株式会社	大阪市北区中之島3丁目3番23号	1,320	10.73
株式会社 シード(自己株式)	京都市山科区榎辻中在家町8番地1	920	7.47
佐藤 友亮	東京都世田谷区	360	2.92
三木 潤一	奈良県奈良市	212	1.72
白鳥 康一	栃木県真岡市	182	1.47
畑 福謙昌	東京都豊島区	180	1.46
大阪証券金融 株式会社	大阪市中央区北浜2丁目4-6	157	1.27
計		8,515	69.22

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成24年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 920	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 11,380	11,380	-
単元未満株式	-	-	-
発行済株式総数	12,300	-	-
総株主の議決権	-	11,380	-

【自己株式等】

平成24年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社 シード	京都市山科区榎辻中在家町 8番地1	920	-	920	7.47
計		920	-	920	7.47

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に準じて作成し、「建設業法施行規則」(昭和24年建設省令第14号)に準じて記載しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成24年7月1日から平成24年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成24年4月1日から平成24年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、清友監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	785,545	439,767
受取手形・完成工事未収入金等	2 292,679	2 329,065
販売用不動産	50,000	50,000
未成工事支出金	34,825	140,784
仕掛販売用不動産	19,121	19,121
繰延税金資産	4,266	21,846
その他	39,380	38,266
貸倒引当金	1,737	1,970
流動資産合計	1,224,082	1,036,881
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,401,635	1,352,198
その他(純額)	4,407	3,571
土地	333,355	333,355
有形固定資産合計	1,739,398	1,689,124
無形固定資産	12,954	12,338
投資その他の資産		
その他	210,271	198,679
貸倒引当金	9,532	8,050
投資その他の資産合計	200,739	190,629
固定資産合計	1,953,092	1,892,093
資産合計	3,177,174	2,928,974
負債の部		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	456,336	446,978
短期借入金	345,000	310,000
1年内返済予定の長期借入金	245,192	225,192
1年内償還予定の社債	50,000	50,000
未払法人税等	1,428	1,348
未成工事受入金	170,103	208,574
賞与引当金	6,257	4,900
完成工事補償引当金	12,133	6,086
工事損失引当金	7,230	4,075
その他	80,769	73,566
流動負債合計	1,374,453	1,330,721

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
固定負債		
社債	100,000	75,000
長期借入金	479,908	367,312
退職給付引当金	29,057	29,544
預り保証金	396,398	391,555
資産除去債務	101,375	102,397
その他	68,231	66,080
固定負債合計	1,174,971	1,031,889
負債合計	2,549,424	2,362,610
純資産の部		
株主資本		
資本金	260,782	260,782
資本剰余金	226,282	226,282
利益剰余金	175,646	114,259
自己株式	34,960	34,960
株主資本合計	627,750	566,363
純資産合計	627,750	566,363
負債純資産合計	3,177,174	2,928,974

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
売上高	2,743,722	2,074,794
売上原価	2,591,051	1,929,901
売上総利益	152,671	144,892
販売費及び一般管理費	253,612	212,410
営業損失()	100,940	67,517
営業外収益		
受取利息	124	160
受取手数料	826	1,073
受取保険金	151	-
その他	1,205	1,115
営業外収益合計	2,308	2,349
営業外費用		
支払利息	15,301	11,509
その他	4,430	2,664
営業外費用合計	19,731	14,173
経常損失()	118,364	79,341
特別損失		
固定資産除却損	-	10
特別損失合計	-	10
税金等調整前四半期純損失()	118,364	79,352
法人税、住民税及び事業税	714	594
法人税等還付税額	14,648	-
法人税等調整額	29,959	18,559
法人税等合計	43,894	17,965
少数株主損益調整前四半期純損失()	74,470	61,386
少数株主利益	-	-
四半期純損失()	74,470	61,386

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失()	74,470	61,386
四半期包括利益	74,470	61,386
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	74,470	61,386
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失()	118,364	79,352
減価償却費	57,068	51,579
貸倒引当金の増減額(は減少)	1,977	1,249
賞与引当金の増減額(は減少)	12,528	1,357
退職給付引当金の増減額(は減少)	2,637	487
完成工事補償引当金の増減額(は減少)	-	6,047
工事損失引当金の増減額(は減少)	14,945	3,155
受取利息及び受取配当金	124	160
支払利息	13,169	11,509
固定資産除却損	-	10
売上債権の増減額(は増加)	85,012	36,386
たな卸資産の増減額(は増加)	842,514	105,959
差入保証金の増減額(は増加)	4,817	8
仕入債務の増減額(は減少)	2,969	9,357
未払消費税等の増減額(は減少)	6,944	8,926
未成工事受入金の増減額(は減少)	32,433	38,471
預り保証金の増減額(は減少)	68,728	6,490
その他	21,171	4,662
小計	597,905	151,714
利息及び配当金の受取額	82	160
利息の支払額	8,727	8,449
法人税等の還付額	14,648	-
法人税等の支払額	1,155	1,428
営業活動によるキャッシュ・フロー	602,753	161,431
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	4,867	6,002
定期預金の払戻による収入	-	54,316
長期貸付けによる支出	-	3,000
出資金の払込による支出	-	50
有形固定資産の取得による支出	1,350	-
無形固定資産の取得による支出	9,420	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	15,637	45,264
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減額(は減少)	150,000	35,000
長期借入金の返済による支出	141,002	132,596
社債の償還による支出	385,000	25,000
配当金の支払額	8	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	676,010	192,596
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	88,893	308,763
現金及び現金同等物の期首残高	518,775	707,612
現金及び現金同等物の四半期末残高	429,881	398,848

【継続企業の前提に関する事項】

該当事項はありません。

【会計方針の変更等】

当第2四半期連結累計期間
(自平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社及び連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これによる、当第2四半期連結累計期間の損益に与える影響はありません。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

該当事項はありません。

【追加情報】

該当事項はありません。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 受取手形割引高及び受取手形裏書譲渡高

	前連結会計年度 (平成24年 3月31日)	当第 2 四半期連結会計期間 (平成24年 9月30日)
受取手形割引高	-	15,369千円

2 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当第 2 四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成24年 3月31日)	当第 2 四半期連結会計期間 (平成24年 9月30日)
受取手形	39,300千円	9,494千円

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費用及び金額は、次のとおりであります。

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成23年 4月 1 日 至 平成23年 9月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成24年 4月 1 日 至 平成24年 9月30日)
役員報酬	16,038千円	14,598千円
従業員給料及び手当	92,133千円	81,858千円
賞与引当金繰入額	6,720千円	1,247千円
法定福利費	20,966千円	11,530千円
通信交通費	18,488千円	17,649千円
地代家賃	16,529千円	13,506千円
租税公課	12,874千円	6,665千円
管理諸費	24,296千円	22,268千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成23年 4月 1 日 至 平成23年 9月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成24年 4月 1 日 至 平成24年 9月30日)
現金及び預金	498,786千円	439,767千円
預入期間が 3 か月を超える定期預金	68,905千円	40,918千円
現金及び現金同等物	429,881千円	398,848千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				合計
	建設事業	不動産事業	不動産賃貸 管理事業	計	
売上高					
外部顧客への売上高	1,354,075	934,885	454,761	2,743,722	2,743,722
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-
計	1,354,075	934,885	454,761	2,743,722	2,743,722
セグメント利益又は損失()	35,264	17,016	38,676	20,428	20,428

(注) 1 その他事業につきましては、運営しておりました飲食業を平成22年8月をもって閉店している為、当第1四半期より該当事項はありません。

2 セグメント別資産の著しい金額の変動

当第1四半期連結会計期間において賃貸収益物件として事業に供していた販売用不動産の売却を行っており、不動産賃貸管理事業における資産の金額が前連結会計年度末に比べて734,806千円減少しております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	20,428
「その他」の区分の利益	-
セグメント間取引消去	-
全社費用(注)	121,369
棚卸資産の調整額	-
四半期連結損益計算書の営業損失()	100,940

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				合計
	建設事業	不動産事業	不動産賃貸 管理事業	計	
売上高					
外部顧客への売上高	1,621,287	6,105	447,401	2,074,794	2,074,794
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-
計	1,621,287	6,105	447,401	2,074,794	2,074,794
セグメント利益又は損失()	4,011	6,105	34,546	36,640	36,640

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	36,640
「その他」の区分の利益	-
セグメント間取引消去	-
全社費用(注)	104,157
棚卸資産の調整額	-
四半期連結損益計算書の営業損失()	67,517

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

4. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間よりセグメントの区分を一部変更し、従来、「不動産事業」セグメントに含まれていた不動産の管理に関する売上を「不動産賃貸事業」セグメントに変更しました。

この変更に伴い、「不動産賃貸事業」セグメントの名称を第1四半期より「不動産賃貸管理事業」に変更しております。

前連結会計年度の対応する四半期連結累計期間について、変更後の区分方法により作成した報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報を記載しています。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
1株当たり四半期純損失金額()	6,543	5,394
(算定上の基礎)		
四半期純損失金額()(千円)	74,470	61,386
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純損失金額()(千円)	74,470	61,386
普通株式の期中平均株式数(株)	11,380	11,380

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益額については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しない為記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年11月9日

株式会社 シード
取締役会 御中

清友監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 中野 雄介 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 市田 知史 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社シードの平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成24年7月1日から平成24年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成24年4月1日から平成24年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社シード及び連結子会社の平成24年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。
以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。